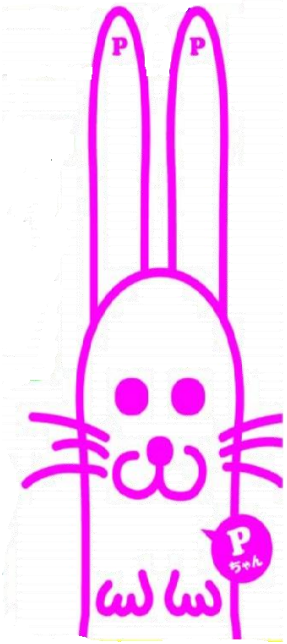
真田で楽しく！元気に！暮らしたい人のためのフリーペーパー
いきいき♪

真田活き活きふるさと通信

第32号　２０１３年　４月１５日発行【真田地域に全戸配布】



パインビークスキー場
マスコット　Ｐちゃん

３月１０日に菅平高原のパインビークスキー場（昔の名前は、オオマツ、ツバクロスキー場）の第１回のＰーフェスが開催されました。このお祭りは、お客様も地域の皆様も一緒に楽しめるお祭がしたいと企画されました。キッズパークでは、ゲレンデの中のウサギのＰちゃんを５匹見つけると、きれいなお姉さんからお菓子がプレゼントされるイベントがありました。子供達は雪と遊びながら一生懸命探していました。

あいにくの吹雪でしたが白雪姫とアルクマくんが、子供たち一人一人においしいお菓子を手渡してくれました。ゆきたんやコスモックルくんとの撮影会、はたらく車に乗っての撮影会、じゃんけん大会など多数のイベントに子供たちは大はしゃぎでした。

「毎年続くお祭りにしたい！」とスタッフも張り切っていました。

パインビークスキー場　　０２６８－７４－２１３８

真田心を考える

第３回　真田三代の活躍

常田　軍三

－　真田三代の活躍　－

一、　真田家の先祖

（二）先祖の出自（しゅつじ）

③　大伴氏説（牧監説（もくげんせつ））

この説にでてくる大伴氏は、大和政権の時代（西暦四～五世紀）に日本の国が統一されたとき、軍事力をになった中央の豪族で、朝鮮半島から移ってきた馬飼いの専門的技能集団を支配した一族でした。その一族の一部が、馬飼いの人たちをともなって信濃に進出し、牧場の経営にあたったのではないかと見られています。

そうした見かたから、信濃国府が上田にあった時代（七～八世紀ごろ）、東信地方に進出してきた大伴氏の中で、真田地方に定着した一族がのちの真田氏、また、東御市一帯に定着した一族が海野氏・祢津氏、そして佐久市の望月町一帯に定着した一族が望月氏のそれぞれの祖先となったものと推定されています。

真田氏の出自（出どころ）については、前号で「土着土豪説」と「海野氏説」の二説を掲げましたのでこれに大伴氏説をくわえ、三つの説になりますが、どれが歴史的に見て正しいのかは判断できません。後日の研究に待つことになります。

なお、当時の牧場は朝廷が管理経営する勅使牧（てしまき）と国府が管理経営する国牧（くにまき）がありましたが、真田町におかれた国牧は信濃の国の軍団の軍馬を飼育することが目的でした。

真田町に国牧が置かれた理由についての郷土史研究家の見解は次のとおりです。

ア　国牧の適地が国府の近くで便利なところが望ましいこと（菅平牧場や鳴尾牧場の存在）

イ　大伴氏の勢力が東信一帯に広がっていたこと（大伴神社が望月にあること）

ウ　馬の神の駒形社があること（山家神社）

エ　馬頭観音が祀られていること（実相院）

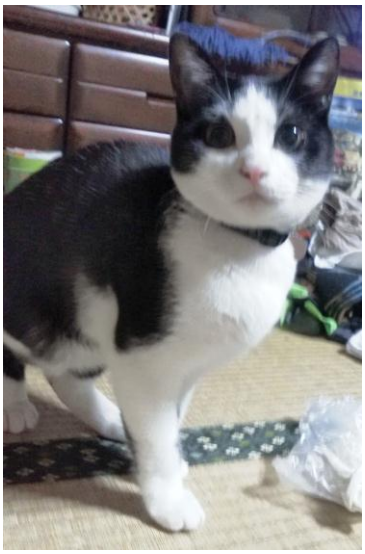
オ　馬に因（ちな）んだ地名が多いことなどです。

（次号に続く）

我が家のペット自慢

金子　幸恵（田中自治会）

昨年の４月に孫が友達からハムスターをもらってきました。
とても可愛く手のひらに載せて遊んだりしました。ハムスターはジジーと鳴くので、ジジとハムリンと名前をつけていました。２匹は仲良く遊んでいました。
ところが９月１８日突然赤ちゃんが生まれたのです、赤い小さな物体が7 つ動いていました。母親は乳を出さなければいけないのでオスが餌を食べにくると怒り、オスは餌を食べられないのでゲージを別にしてやりました。ところがそれから又、１０月８日５匹産まれました。何ということでしょう、たちまち１４匹になってしまいました。

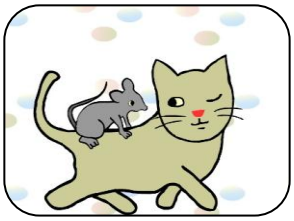


成長が早く１０日位で、自分で餌を食べにチョコチョコ出てきたり親がくわえて檻の中に入れたりしていました。
ところが１０月１８日に今度は孫が猫をもらってきました。名前はココです。オスの子猫で白黒で可愛い顔をしていて、たちまち我が家の人気物、ところがいたずらでどうしようもない！！障子はかきのぼり､穴が空くとそこから顔を出して穴を大きくしてしまい、障子紙をくわえてビリビリ破いてしまったり、はりに登ったり、我が家は空き家のようになってしまいました。産まれて６ヶ月しないと去勢の手術はできないということなのでそれまで我慢です。

「トムとジェリー仲良く喧嘩しな」という歌がありましたが、ハムスターとココ（猫）は大の仲良し。ココはゲージの上に乗ったり、ゲージの周りをぐるぐる回って追いかけたりしますがなかなか捕まりません。又、ココは、犬のようにおもちゃを投げてもらうと、それを口にくわえて持ってきて、「また投げてくれ」と言わんばかりに、顔を見たりおもちゃを見たりするので、投げてやると何度も飽きずにやってくるので、こちらが疲れてしまいます。

去勢の手術をするとおとなしくなると言うので嬉しい反面、ちょっとつまらなくなりそうです。
ハムスターを飼ってみたい方､無料で上げますがいかがですか？

連絡先　☎７３－２４１７です。



真田町の頌徳碑をたずねて（最終回）

第８回　若林彦太郎翁頌徳碑（旧本原村）

若林　幸正（通信員№４９）

真田町小玉上御沢の屋敷跡に、若林彦太郎翁の頌徳碑が建立されている。
高さ２４５㎝、巾１１０㎝で大きな岩石の上に立つ立派な碑である。

※ 若林彦太郎翁の家系図をみると、若林家６代彦兵衛（彦太郎の父）は明治２４年本原村村長を歴任している。続く７代彦太郎翁も本原村村長に就任し、1 代おいて、9 代の若林康郎氏が平成５年に真田町町長を歴任すると言う栄光ある家系であります。

・ 顕彰碑の碑文（要約）

1. 慶応　３年　本原村赤井若林彦兵衛の長男として生まれる。
2. 明治２０年　松本尋常中学卒業
3. 明治３２年　本原村書記
4. 明治３５年　本原村議員
5. 明治３７年　本原村町役
6. 明治３９年　本原村村長就任
7. 明治４４年　郡会議員に当選

◎ 若林彦太郎翁の功績と勲八等受章

翁は助役に就任するや、人情風土を精盃し行政事務を整理統一し、村内諸般に関する事業の発展と普及に尽力する。

＜ひとくちメモ＞

1.頌徳碑建立地	真田町本原屋敷跡
2.建立年日	昭和５年５月
3.建立者	頌徳碑建立委員会 委員長　神林政芳
4.写真撮影	平成２５年３月
5.参考文献	頌徳碑　碑文より
6.資料提供者	赤井区若林康郎氏

・功績

1. 教育の普及と校舎の改築
2. 農業技術の向上、農業改善の推進
3. 道路の改修、運輸交通の促進、産業興業の促進
4. 植林をおこし、村の基本財源の増殖につとめる
5. 村民の福利増進、貯金の奨励し、勤労の効果につとめる。

これらの事業の功績は誠に偉大であり、３８才の町役時代に異例の勲八等が授章された。

「真田町の頌徳碑をたずねて」は第 23 号から 1 年 3 か月の間、連載として続けてまいりましたが、今回で最終回となりました。通信員の若林さん!!　長い間、取材と投稿を続けていただきありがとうございました。
新しい企画が生まれることを楽しみにしています。

お友達募集

子育てサークル「どんぐりの会」では、平成 25 年度の新入会員を募集しています。
真田町を拠点に、親子のスキンシップ・季節の行事・外遊び・手遊びなど、0歳から3歳までのお子さんが楽しめる様な会を計画しています。子供同士、親同士、交流を深めつつ、一緒に楽しみませんか？
年度途中からの入会も大歓迎ですのでお気軽にお問い合わせください♪

活動日・回数	毎月1～2回（年間15回）
主な活動場所	真田保健センター
会費	年間1，500円 （途中入会の場合1回100円　二人目以降半額）
保険料	こども一人800円
問い合わせ	間藤まりの　　080－5145－9851

お知らせ・募集など編集部にお寄せください。

リレー訪問

真田町の社長さん　第6回

株式会社　若林　　若林　晃　さん

「床屋に行ってスーツ着てくれば良かったな」
少し照れたようにカメラに笑顔を向けてくださいました。
今回の社長さんは昭和８年創業の瓦屋さん【株式会社若林】の若林晃社長です。
取材をさせていただいた事務所には甲冑やトリックアートなど男心をくすぐる品が多くありました。

一番目を引いたのは、やはり甲冑。なんとすべてダンボールで手作りしたものでそれを着て真田観光協力隊や菅平の雪合戦などに参加されたそうです。その話をする姿は無邪気な少年のように目が輝いていました。しかし仕事の話になると一転、その目は社員と家族を守る男の目になりました。
昨年は東北大地震の被災地に行き２００軒もの建物の建設に携わりそこで無惨に崩れ落ちた瓦を目の当たりにし、従来の瓦では今後起こりうる大地震、台風に耐えられず瓦離れが進んでいくだろうと思ったそうです。そこで『震度７、風速３０ｍの強風に対応できる瓦』のガイドラインを作成しなんとか瓦離れを防ごうと活動されています。
それでも不景気のあおりを受け「なんの仕事でもやらないと」と県外の仕事を請け負いその行きや帰りのついでに荷物を運ぶこともするそうです。

また仙台に営業所や、タイに友人のリサイクル会社の子会社を作るなど「１８０度考えを変えて」会社を引っ張っていらっしゃいます。そんなリーダー気質は周りも見過ごすわけもなく瓦組合の会長に推薦され、ご本人は「仕方なく」とおっしゃっていましたが、就任し経済的にも傾きかけていた組合をしっかり立て直されました。
社訓を尋ねると『地元に根付く瓦文化』と答えていただきました。
瓦離れが進む時代。瓦が使われなくなれば「これからの若い社員が大変」と日々努力されています。
社長は東部町生まれですが、真田に来られて２０年も経っており、真田を「地元」と呼びます。
「地元の景気が良くなるには飲み屋が繁盛しなきゃ」と、サラリーマンから他の社長まで知り合いを誘い合って真田地区中の飲み屋に行くそうで、現在参加者募集中だそうです。
趣味を尋ねると「家族と旅行かな」そう言った後に近くにいた奥様が「嘘ばっかり…」とぽつり。
趣味は定かではありませんが「瓦と奥さん一筋です」この言葉に嘘はないと思いました。
瓦を愛し、地元を愛し、社員を愛し、家族を愛する大黒柱のような方でした。

屋根の事ならおまかせください
株式会社 若林
〒３８６－２２０３
上田市真田町傍陽５６２－２
TEL 75－3222 FAX 75－3223

行ってきました！

上田市真田地区福祉推進委員・福祉委員会
～合同研修会～

今回は、平成 25 年上田市真田地区福祉推進委員・福祉委員合同研修会の様子をご案内します。

2 月 24 日（日）、真田町の福祉推進委員・福祉委員およそ 90 余名が、真田総合福祉センターに集まり、役割や連携の確認、行政や社会福祉協議会の紹介、事業の報告の研修会を開催いたしました。その中で、福祉推進委員・福祉委員の役割について説明を受けました。

福祉推進委員は、自治会単位で行う地域ふれあい事業の推進役とし、自治会役員、民生児童委員、福祉委員の皆さんと共に企画・運営をしていただき、福祉委員は推進委員を補佐します。地域ふれあい事業とは社会福祉協議会が助成し、住民支え合いマップ（住民皆で見守り合い、生活に不安や不便を感じている人を支援するマップ）の作成やふれあい会食会（茶話会、敬老会、施設訪問）などを自治会単位に行う事業という説明を受け、学びを深めました。

また、地域ふれあい事業の実践発表が行われ、横尾・傍陽中組・下原の福祉推進委員が自治会の活動状況を報告して下さいました。その中で大きな課題として、男性がなかなか参加されないことが挙がりました。男性の皆さんが参加したくなる企画をしていくのが、重要と認識しました。

また、高齢者の皆さんが安心して生活できるように、介護や生活の困りごとなどを支援する高齢者支援係（行政）と、真田地域包括支援センターについて、職員の紹介と事業内容を説明させて頂きました。その後、全員で「孤立死」のＤＶＤを視覚する中で、地域で孤立しがちな高齢者を見守り、孤立死の悲劇を防ごうと、決意を新たにしました。

本日は同時に真田災害救援ボランティアセンターの立ち上げ・運営訓練も行い、その中で、ＮＰＯ法人ほこほコネクト代表の宮下俊哉さんを講師に、「災害救援ボランティアセンターとは」と題して講演を頂きました。災害ボランティアを行うためには、ニーズとウォンツを混同してはならない・地元に負担を掛けない・変化に工夫して対応するといった、配慮が必要であること、またボランティアのケアも重要であると認識いたしました。

その後は、全員で非常食を試食し、盛り沢山の研修を終え、委員の皆さんも「今後地域のために活動していこう」と、意欲満々の笑顔が印象的でした。

「自分達の地域は自分達で」をモットーにまちづくりを進めていくこと、そしてそれをお手伝いするのが、社会福祉協議会や真田地域包括支援センターの役割です。地域の委員の皆さんと連携して、素敵な真田町を目指し、共に手を取り合って参りたいと取材を通して感じました。

真田包括支援センターは、
高齢者の生活を支える総合窓口です。
☎72-8055　有線 2080
（総合福祉センター内　社会福祉協議会）

編集後記

● **イベントのキャラクター達がかわいく、楽しい取材でした。（飯田）**

発行元：「真田 活き活きふるさと通信」編集部　事務局：高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ内
〒386-2201 上田市真田町長 7141－1　有線 2111
TEL 0268-72-2781　FAX 0268-61-4010　E-mail　keijinfukushi@azarean.jp
ホームページ　http://www.azarean.jp

イベント情報や、通信を読まれてのご意見、ご感想をお寄せください。次号は 2013 年 6 月 15 日の発行です。